

毒キノコ



▲テングタケ(傘径 10-20 cm)

シイヤカシ、クヌギやコナラ、マツやタケなど多くの樹種がこんもりと茂る立田山はキノコの宝庫。立田山で催されるキノコ観察会ではいつも100種類近くのキノコが観察されます。もちろん、シロハツモドキ、テングタケ、テングツルタケ、フクロツルタケ、ヒカゲシビレタケなどの毒キノコも……。でも、キノコのことをよく知れば決して怖くはありません。

また、採っても、採ったキノコ(孢子)を後で森に返せばキノコが減ることはありません。もっと気軽にキノコとお友だちになりましょう。

特長 日本には約2,500種(5,000~6,000種類と書いてある本もあります)。このうち食用キノコは約150種類、毒キノコは約150種類(本当に危ないのは30種)。残りは、食不適のキノコ(毒ではないが匂いが悪い、味が悪いなど、食べても美味しくないキノコ)、食毒不明のキノコです。

また、キノコの色や形、生育場所は実にバラエティに富んでいて、傘のようなキノコ、扇型のキノコ、真ん丸キノコ、真っ赤なキノコ、光るキノコ、キノコに生えるキノコ、竹山に生えるキノコ、芝生の中に生えるキノコなどがあって、探して見るだけでも楽しくなります。

すみか キノコは、枯木や落葉の中などを「すみか」に菌糸が成熟して「孢子(種子)」をつくるときの姿(花)です。立田山のように樹種が多くて大木が茂る森は、年間を通じて湿度や温度の変化が少ないため、多くの種類の菌糸(キノコ)にとって快適なすみかです。この菌糸から、主に初夏から秋にかけて(特に雨上がり後に)、色々なキノコ(毒キノコも)が立田の森に出現します。

症状 参考文献：毒きのこデータベース(滋賀大学大津キャンパス理科教育講座)

Aタイプ (猛毒キノコ)	細胞を破壊し、肝臓、腎臓に障害を与え、死をもたらす毒⇒ 激しい下痢・腹痛、肝・腎臓障害 ⇒徴候が現れるまでに6時間以上、通常10時間	ドクツルタケ、シロタマゴテングタケ、ニセクロハツ、フクロツルタケなど
Bタイプ (毒キノコ)	主に自律神経に作用する毒⇒ 悪酔い症状・発汗症状 ⇒徴候は食後20分~2時間後に出る	ヒトヨタケ、アセタケ類、カヤタケ類など
Cタイプ (毒キノコ)	主に中枢神経系に作用する毒⇒ 幻覚・精神錯乱状態 ⇒徴候は食後20分~2時間後に始まる	ベニテングタケ、テングタケ、ヒカゲシビレタケ、ワライタケなど
Dタイプ (毒キノコ)	主に胃腸刺激⇒ 胃腸障害 ⇒徴候は食後30分~3時間後に始まる	ツキヨタケ、クサウラベニタケ、カキシメジなど
Eタイプ (毒キノコ)	末端紅痛症状⇒ 手足の先が赤く腫れ、激痛が1か月以上続く ⇒徴候は食後4~5日して出る	ドクササコ

治療 キノコ中毒に気づいたら、のどに指を差し込んで吐き出し、急いで医師の手当てを受けましょう。特に生死にかかわるAタイプの中毒は一刻を争います。また、食べたキノコの種類によって治療法等が異なるので、キノコ特定のため、「食べ残し」や「嘔吐物」があれば必ず持参します。

予防策 日本で一番怖い猛毒キノコ「ドクツルタケ」も、「1本」食べると危険とされています。手に持ったり、匂いをかいだり、少しかじって味をみるくらいで中毒することはありません。

また、昔から「縦に裂けるキノコは食べられる」「地味な色のキノコは食用、鮮やかな色のキノコは毒」「ナスと一緒に炊けば毒が消える」「虫食いの跡のあるキノコは食べられる」といいますが、これらはすべて間違い(非科学的な迷信)です。

中毒を防ぐには、毒キノコをきちんと覚えて「食べないこと」が唯一の方法です。